

特別講演 1

「進化した C 型肝炎治療の基礎知識」

大阪赤十字病院 消化器内科 統括部長

丸澤 宏之 先生

我が国において、C型肝炎ウイルス（HCV）の感染者は150万人以上にのぼると推定されています。HCVの持続感染に伴い、年月を経て慢性肝炎から肝硬変に進展し、腹水貯留や食道静脈瘤などの合併症をきたすとともに、一定の頻度で肝癌が発生してきます。しかしながら、HCVに感染していても気づかないまま生活をしている人が多数存在しているのが現状です。

このため、病院受診をしたすべての方に、一生に一度はHCV抗体検査を受けていただくことが重要です。症状が発現する前にHCV感染者を発見し、抗ウイルス治療をすることにより、将来の肝癌を予防することができるのです。C型肝炎の治療は飛躍的に進化し、現在では最短で8週間、経口剤を内服するだけで、ほとんどのひとがウイルス排除を達成できるようになりました。根治することが難しい肝癌となる前に、ひとりでも多くのHCV感染者に新しいC型肝炎治療を受けていただくことを願っています。